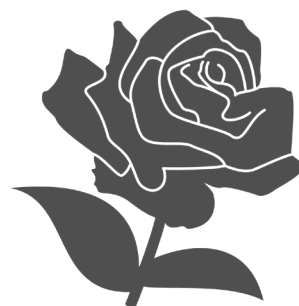




ローズフェスタ開催中

バラの生育も順調で1番花が満開状態になっています。バラは華麗な姿はもちろん、あの香りを嗅いだときの感動は、何度経験してもあせることはありません。香こそバラの真の魅力だと思います。バラの香りはストレスを低減し、「皮膚の水分蒸発量を低下させる」ことがわかっているのです。そんな力もあるとは驚きです。バラは庭に欠かせない植物の1つですが、草花との調和を庭のテーマとして考えると、バラ以外にも様々な花を植えて合わせる事が出来ます。草花と言えば、1年草や宿根草が定番。宿根草は冬になると地上部が枯れますが、根は生きています。暖かくなると再び葉を展開し、花を咲かせ植えばなしで何年も花が咲き、ローメンテナンスな植物と言われています。年々大株になるのでコントロールは必須ですが、バラとの組み合わせはガーデンに調和をもたらせます。バラは多様な樹形があることも特徴ですから、空間的なデザインが叶うのです。ご自宅の庭で「岩見沢市の花・バラ」を楽しみましょう。

(たかはし)



今月の便り

バラゾウムシ

バラゾウムシとは2ミリ前後の小さなコウチュウです。クロケシツブチョッキリの別名で、バラ栽培では春先に大事な花芽を枯らす害虫として嫌われています。まだ柔らかい芽をぐりりと噛み、水分が上がらないようにしてから枯らす部分に卵を産みつけます。なので再び虫にやられないための一番の予防法は枯れた先端を見つけたらすぐに切り取って処分。虫が生まれないようにする事です。既に活動している成虫は刺激を与えるとポロリと落ちるので下で受け止めてまめに捕殺すると良いです。バラ園のボランティア仲間と話していると、この季節は必ず自宅のバラのバラゾウムシの被害が話題になります。一度発生すると毎年被害は少なくありません。アルケミラモリスやイチゴなどバラ科の植物がバラに近いところにある場合はそちらの新芽や花芽もやられてしまいます。どうぞ気をつけて。園芸の害虫問題は人によって考え方が違います。すぐに一匹残らず退治したい人や徐々に減らせればいいと思う人など、対処方法は人それぞれ。時に薬を使う場合もあるでしょう。その場合はくれぐれも自宅の庭が外の自然や隣り近所の庭と繋がっているのを忘れずにコミュニケーションをとりながら。見てくれる人が元気をもらえる健康な植物を育てられたらいいですね。(きのした)

フウチソウ

フウチソウ（風知草）は、日本の太平洋側を原産とする 1 属 1 種の多年草で、古くから盆栽、山野草として親しまれてきました。フウチソウの学名は「*Hakonechloa macra*」ですが、「*Hakonechloa*」とは「Hakone(箱根)」とギリシャ語の草を意味する「*chloa*」から成る合成語で、神奈川県箱根近辺に多く見られることに由来しているそうです。和名のウラハグサ（裏葉草）は、茎が枝垂れ、葉の裏表が反転していることにちなみます。そのため、日に当たる葉裏が濃い緑色になってつやがあり下を向く葉表が薄い色になっています。ウラハグサ（裏葉草）のなかでも斑入りで葉の色が美しい品種がフウチソウ（風知草）という名前で流通しています。黄色い葉に緑色の筋が入るものを金裏葉草（キンウラハグサ）もしくは斑入り風知草（フィリフウチソウ）、明るい黄緑色の葉を持つ黄金風知草（オウゴンフウチソウ）や、葉の先端が赤くなる紅風知草（ベニフウチソウ）などの品種があります。ベニフウチソウは他の種類よりやや小ぶりです。風に揺れる葉が涼しげで、和風の庭だけでなく洋風の庭や海外でも人気があります。フウチソウ（風知草）は、水はけさえ良ければあまり土壌を選びませんが、葉が日差しで焼けないように明るい半日陰で栽培します。冬には地上部が枯れるので秋に切りそろえるとよいでしょう。（いとう）



*Hakonechloa
macra*
フウチソウ
(ウラハグサ)

お知らせ

2026 年度 バラ園作業ボランティア「トムテ」のなかま募集中！

バラ園を一緒に育みませんか？

活動日 ①毎週木曜日・金曜日（定例活動日）②ばらゼミ開催日の午後から
③その他自由

バラ管理以外に、宿根草や一年草の手入れもあります。

参加には登録が必要です。詳しくはお気軽ににお問い合わせください。

お問合せ先 いわみざわ公園バラ園（室内公園色彩館）

TEL：0126-25-6111 URL：<https://iwamizawa-park.com/>

Eメール：info@iwamizawa-park.com

ひとつき ひとバラ



文： 小 林 薫
(いわみざわ公園バラ園)



バラが好きな方であればどなたにも、思い出のバラがあるのではないのでしょうか。私にとっての思い出のバラは、今回ご紹介するアルベルティーヌ（英語読みではアルバータイン）です。私は関東出身なのですが、実家の目の前に住んでいた祖父母の庭の、片隅に咲いていたのがこのバラでした。小学校のころ、習い事の発表会でステージに上がるときに母がアルベルティーヌの花を胸元につけてくれたことを思い出します。優しいサーモンピンクに、少し褐色がかった花色。波打ったような花びらが40枚ほど連なる八重咲きで、房をつくります。花びらがギュッと重なるというよりはふんわりと開いた花形で、波打つ花びらと相まって大らかな雰囲気があります。花形は9cmほどでランブラーローズにしては大きな花ですが、これは交配親のハイブリットティー譲りと思われます。作出はBarbier Frères & Compagnie（バルビエ兄弟社）で、アルベール・バルビエ（1845年～1931年）とその弟ユージーヌが1894年に設立した苗木会社です。アルベルティーヌという花名は創設者アルベールからきているのかもしれませんが。（アルベル

第百三十九回

ランブラーローズ

アルベルティーヌ

Albertine

作出国：フランス

作出者：Barbier Frères & Compagnie

作出年：1921 年以前

ハーディネスゾーン：Z5b ～ Z 9b

一季咲き

交雑：Rosa luciae Franch. & Rochebr. ×

Mrs. Arthur Robert Waddell

ティーヌはアルベールの女性形、どちらもフランスでは人物名として使われており、「高貴な」「明るい」「輝く」といった意味があります。現在バルビエ・ローズの栽培品種は30種類ほど残っており、すべて1900年から1930年の間に発表されたものだそうです。アルベリックバルビエ（1900年作出）、レオンティーヌジェルベ（1903年作出）、また、いわみざわ公園でも植栽しているフランソワジュランヴィル（1906年作出）なども含まれています。データ上では2～6mまで伸びる生育旺盛なバラのはずですが、いわみざわ公園では成績が思わしくなく、もじもじしています。ハーディネスゾーンはZ5～なので札幌や住宅地などではもっと伸びるのではないのでしょうか？5月末に長野県中野市一本木公園で行われたバラサミットに参加してきましたのですが、公園入口のパーゴラにアルベルティーヌが誘引されていました。四方から伸びた枝は4～5mはあり、見事なドームを形成していました。横浜イングリッシュガーデンの大きなトンネルアーチにも植栽されていたので、機会があれば見に行かてください。

今月の市民園芸講座のご案内



●7月4日(土)・7月12日(日)

バラ管理スタッフのローズツアー 10:00～12:00

参加費：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●7月5日(日) 盆栽づくりの楽しさ 13:00～15:00

材料費：1,000円 定員：40名 講師：岩見沢樹石会 会員 さん

●7月25日(土) ばらゼミ⑤ 10:00～12:00

参加費：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん

●8月2日(日) ミニ盆栽を仕立てよう 13:00～15:00

材料費：2,000円 定員：20名 講師：君島 信博 さん

※お申し込みは講座開催月の1日(休園日の場合は翌営業日)

9:00～電話で受付ております。

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申込みをお願いいたします。